

人工産アユと海産アユの交雑の可能性

[要約]

人工産アユと海産（相模湾産）アユの池中での性成熟時期を調べたところ、1ヶ月ほどのずれがあることが分かった。このことから、人工産アユと海産アユの交雑の可能性は低いことが予想され、人工産アユの放流は、天然アユの遺伝子組成に影響を与えることは少ないと考えられる。

[背景・ねらい]

近年の遺伝子多様性の保護の観点から、天然アユと異質な遺伝子組成を持つ人工産アユが交雑した場合、天然の遺伝子組成を変化させたり、稚仔魚の生残率を低下させたりすることが懸念されている。

そこで、本県の人工産アユと海産アユの交雑の可能性を調べることで、現在の人工産アユの放流のありかたについて検討してみることにした。

[成果の内容・特徴]

人工産アユと海産アユのGSI値が10以上に達した状態を成熟とみなし、両系統のその時期を比較した。結果、人工産アユの成熟は、海産アユに比べて1ヶ月ほど早く、人工産アユと海産アユの交雑の可能性は低いと考えられた。

[成果の活用面・留意点]

人工産アユの放流は、天然アユの遺伝子組成に影響を与えることは少ないと考えられるので、人工産アユの放流は、増殖手段として、その活用が期待できる。ただ、今後、自然水域での両系統の性成熟時期を把握し、池中でのそれと比較してゆく必要がある。

[資料名]

人工産アユと海産アユの交雑の可能性

[研究課題名]

アユ資源対策事業

[研究期間]

平成12年～16年